

# **琢道城跡発掘調査概報**

1989年3月

**瑞穂町教育委員会**

## 序

このたび、瑞穂碎石株式会社の岩石採集計画事業実施に伴って、琢道城遺跡発掘調査を実施いたしました。

当瑞穂町には、二つ山城跡をはじめ様々な形態をもつ数多くの城跡が点在しております。しかし、ほとんど調査のメスが加えられておらず、謎の部分が多く、早急な調査の必要を感じておりました。

今回の琢道城遺跡の調査を手始めに、今後とも城郭遺跡の詳細な調査研究を進めていきたいと存じております。

本調査は、琢道城の中核部分に迫るものでなく、未解明の部分が多く残されておりますが、これから城跡研究の一助になれば幸いに存じます。

最後に、本調査にあたり終始ご指導くださいました島根県教育委員会をはじめ関係者の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

平成元年3月

瑞穂長教育委員会

教育長 高橋律郎

## 目 次

|                 |   |
|-----------------|---|
| I 調査に至る経緯 ..... | 1 |
| II 位置と環境 .....  | 3 |
| III 調査の概要 ..... | 4 |
| (1) 主郭部 .....   | 4 |
| (2) 周辺部 .....   | 4 |
| IV まとめ .....    | 8 |
| 付 瑞穂町の城跡 .....  | 9 |

## 例 言

1. 本書は昭和63年度に瑞穂教育委員会が瑞穂碎石株式会社の依頼を受けて実施した、砕石工事に伴う発掘調査の概報である。
2. 調査組織  

|       |                             |         |
|-------|-----------------------------|---------|
| 調査主体  | 瑞穂町教育委員会教育長                 | 高 橋 律 郎 |
| 事務局   | 瑞穂町教育委員会教育次長                | 井 上 薫   |
|       | 瑞穂町教育委員会次長補佐                | 石 川 久 人 |
| 調査指導  | 島根県教育委員会<br>文化課埋蔵文化財第一係長    | 宮 沢 明 久 |
|       | 島根県教育委員会<br>埋蔵文化財第一係文化財保護主任 | 松 本 岩 雄 |
| 調査員   | 島根県文化財保護指導員                 | 吉 川 正   |
| 調査協力員 | 浜田市教育委員会嘱託                  | 原 裕 司   |
3. 作業員として小糠米太郎、島津浅市、谷 巍、戸津川里美、松島実、森岡茂登の各氏に御協力いただいたほか、瑞穂碎石株式会社の協力を得ている。
4. 揭載の地形測量は測地技研株式会社に委託した。なお、主郭部の地形測量は瑞穂町の単独事業として実施したものである。
5. 本書の執筆は井上、吉川、原が分担して行った。
6. 本書の編集は吉川、原が行った。



## 調査に至る経緯

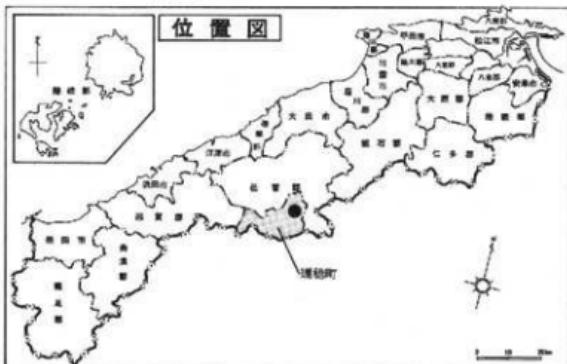
琢道城跡は、瑞穂町大字高見 1656-1 およびその周辺に所在する中世山城であるが、昭和40年代中頃よりその山麓馬場集落地内において碎石事業が始められ、昭和49年現瑞穂碎石株式会社がその経営権を譲り受け、現在まで碎石事業が続けられてきた。その間、琢道城の城郭遺構保護のため、瑞穂町教育委員会は、瑞穂町碎石株式会社と種々の協議を行ってきた経緯がある。

ところで、昭和63年7月20日をもって碎石採集認可期限が期限切れとなるにあたり、瑞穂碎石株式会社より、島根県商工振興課に対し琢道城本丸より派生する尾根を越えた、通称新ヶ迫奥（大字高見 1392 外）の部分について、新たに碎石事業認可申請が提出された。

これに伴い、瑞穂町教育委員会は、島根県教育庁文化課の指導を受け、瑞穂碎石株式会社と協議を行い、今回申請地区について城郭遺構の有無について、確認のための発掘調査を実施することとしたものである。

なお、今回の調査にあわせ主郭部の測量調査を実施した。

第1図 遺跡位置





△ 城 跡

● 集落跡

▲ 古墳・横穴

▲ 須恵器窯跡

- |        |          |         |           |          |          |          |         |         |           |          |           |          |         |          |         |         |         |           |          |         |         |         |         |         |
|--------|----------|---------|-----------|----------|----------|----------|---------|---------|-----------|----------|-----------|----------|---------|----------|---------|---------|---------|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 球道跡 | 2. 萩原古墳跡 | 3. 重石遺跡 | 4. 高見原古墳跡 | 5. 宮原坂遺跡 | 6. 大原古墳跡 | 7. 倉宇根遺跡 | 8. 倉谷遺跡 | 9. 寺山遺跡 | 10. 八賀山城跡 | 11. 黒岩段跡 | 12. 八段の道跡 | 13. 岩原段跡 | 14. 横塚跡 | 15. 横塚矢別 | 16. 原原跡 | 17. 原広跡 | 18. 原当別 | 19. 瀬戸原堂跡 | 20. 戸原堂跡 | 21. 石堂跡 | 22. 石堂跡 | 23. 石樂山 | 24. 安宇山 | 25. 遺跡群 |
| 2. 墳跡  | 3. 墳跡    | 4. 遺跡   | 5. 墳跡     | 6. 墳跡    | 7. 墳跡    | 8. 遺跡    | 9. 遺跡   | 10. 城跡  | 11. 墳跡    | 12. 墳跡   | 13. 墳跡    | 14. 墳跡   | 15. 墳跡  | 16. 墳跡   | 17. 墳跡  | 18. 墳跡  | 19. 穴   | 20. 墳     | 21. 墳    | 22. 墳   | 23. 墳   | 24. 墳   | 25. 墳群  |         |



## 位 置 と 環 境

広島県との県境をなす標高600～800mの中国山地に源を発する出羽川は、瑞穂町のはば中央部を西流し、その流域には狭長な沖積平野や河岸段丘からなる出羽盆地を形成している。石見町境内に聳える冠山に源を発した高見川は、瑞穂町吉時で出羽川に合流するが、その流域には高見盆地と呼ばれる小規模な沖積平野を形成している。

今回調査の対象となった琢道城跡は、この出羽川と高見川の合流点の北東に位置する比高90mの独立した尾根上に築かれた小規模な中世山城跡である。この琢道城跡に立つと、高見盆地の全域および出羽盆地の下流域を一望でき、また羽須美村地内との交通の要衝にあたり絶好の位置を占めている。

瑞穂町地内では、現在までに約450ヶ所の遺跡の分布が確認されており、県内有数の遺跡分布密度の高い地域として知られている。この内の半数以上は鉄跡などの製鉄関係の遺跡であり町内各地に分布している。

集落跡・散布地・古墳などの遺跡は盆地の比高10～50mの段丘や低丘陵上に位置するものが多く、時期的には旧石器時代から歴史時代に至るもののが知られている。

旧石器時代の遺跡としては、横道遺跡（第2図15）や荒横遺跡が知られている。横道遺跡は県内で最初に押型文土器を出土した遺跡として著名であるが、1983年に実施された詳細分布調査の結果、始良火山灰（AT）より下層から石核・剣片が発見され、県内で初めて発掘調査による旧石器時代文化層の存在が確認されたのである。

縄文時代の遺跡としては、前述した横道遺跡で早期の押型文土器群、前期の羽島下層式土器などが出土している。また中国横断道工事に伴って調査された郷路橋遺跡では、前期の爪形文土器・後晩期の土器がまとめて出土しているなど、町内各所で縄文時代の遺跡分布が明らかになりつつある。

弥生時代に入ると、牛塚原遺跡・順奄原遺跡など、出羽盆地の上・中流域で前期の遺跡が出現する。弥生時代の後半には、石堂遺跡（21）賀茂山遺跡（11）重石遺跡（3）宮原遺跡（6）など盆地の段丘面上を中心に遺跡数が増加し、当時の社会がしだいに発展していくことがうかがえる。弥生時代の後期には、地域内の社会発展、階級分化の結果、順奄原1号墳・御華山墳墓などの共同体の首長墓が築かれている。

古墳時代に入ると盆地を中心に遺跡数はさらに増加し、遺跡の規模も大きくなり、当時の社会がさらに発展したことが知られる。古墳時代の終末期には、田の原坂遺跡（5）寺山遺跡（9）八幡山遺跡（10）など山間の谷頭にまで遺跡が分布するようになり遺跡数は急激に増加するが前代から引き続く大規模遺跡の遺跡規模は縮小する傾向がうかがえる。

古墳は約20ヶ所で確認されている。10基程度群集するものもあるが、多くは単独で分布しており、径10m前後の円墳や方墳が多い。高見古墳（4）は小規模な方形墳で墳頂に列石が認められ、古い様相を持つ古墳と考えられている。段の原古墳（14）は小形の堅穴式石室を持つ小方墳である。古墳時代後半には、火字根古墳（7）塙原古墳（16）石堂古墳群（22）など横穴式石室を内部主体とする小円墳が築造され、石堂横穴（23）などの横穴墓の構築も行われている。

また、久永古窯跡群と総称される古墳時代から平安時代の須恵器窯跡も数多く分布しており大規模な須恵器生産地であったことが注目されている。



## 調査の概要

琢道城跡は島根県邑智郡瑞穂町大字高見 1400-1 番地及び大字和田 1656-1 番地に所在する中世の山城である。丘陵は急峻で、北側は谷が深く入り込み、西側は南流する高見川、南側は出羽川が流れて三方がいずれも画され、自然の外防衛線となっている。それに対して東側は山頂より約20m程度低い尾根が伸び隣接する尾根に続いており、崩手にあたるものと考えられる。標高は 360.27m、水田との比高は 90m に及ぶ。眼下には高見盆地を一望することができるほか、川本、羽須美、石見そして田所（瑞穂）の 4 方向から高見盆地に至る交通の要衝をも一望できる。

琢道城跡は、碎石工事によって丘陵の西側から削り取られ、山頂から北へ伸びる尾根をも大きく削り取って、現在は第3図の採土部分よりさらに東側の丘陵中腹部（トレンチ設定個所）にまで及んでいる。碎石による崖面は尾根部分で約80m～50mの切り立った状態となっている。調査は山頂部に辛うじて残された主郭部の測量を実施したほか、今回の工事計画予定地内の2地区にトレンチを設定した。トレンチは崖面に落ち込み状の断面が見られたことから、その確認を目的に行ったが、遺構は確認できなかった。

### (1) 主郭部（第4図参照）

主郭部は山頂の第1郭と東へ伸びる尾根を削平した第2郭、第3郭から構成されている<sup>(1)</sup>。北へ伸びる尾根には山頂から約30mの位置に掘切りが見られたが<sup>(2)</sup>、昭和58年の豪雨災害で消滅している。

第1郭は長軸21m、短軸12mのほぼ長方形の加工面を有するが、平坦なのは現在四等三角点が設置されている西側の南北12m、東西13mの部分のみで、郭の東側は緩やかに東側へ傾斜している。郭の西側縁には低い段を有している。

第2郭は第1郭より4m下がった位置にあり、長軸28m、短軸10mの長方形の加工面を有する。郭は緩やかに東側へ傾斜している。

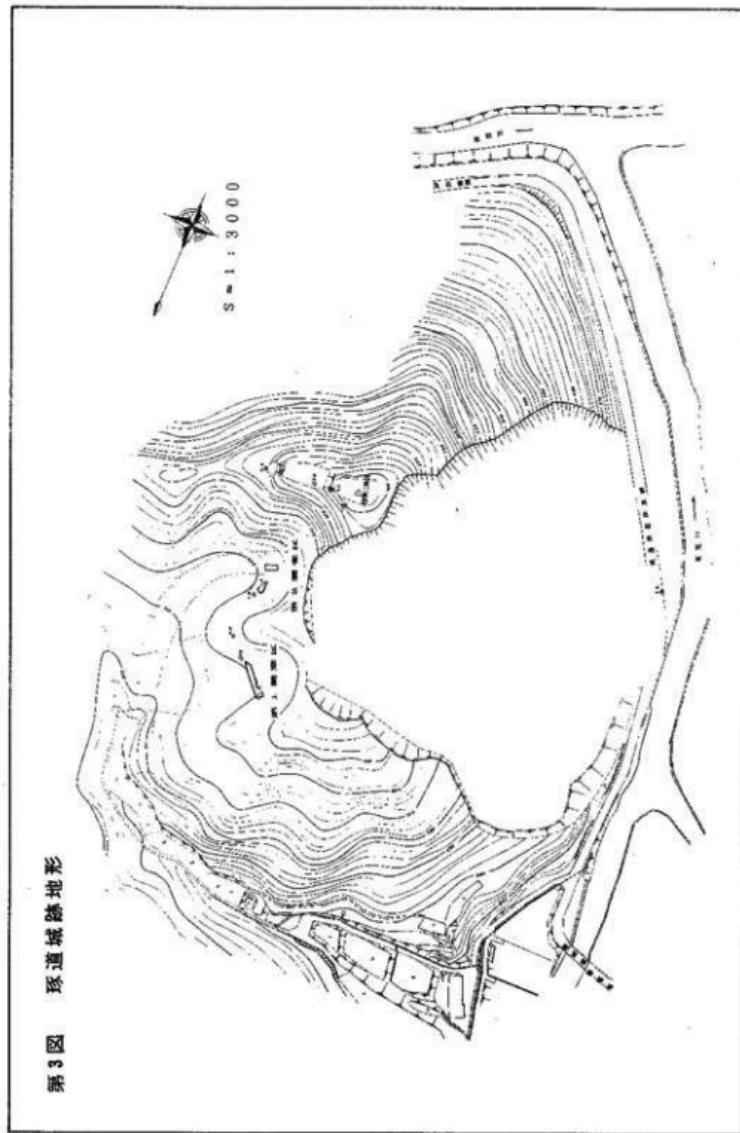
第3郭は第2郭より3.5m下がった位置にあり、長軸5.5m、短軸4mの三角形の平坦な加工面を有するが、東側は郭からそのまま自然の尾根筋となり、また、尾根筋からは何ら加工を見ることができない。第3郭は第1郭、第2郭に比べ削平が十分ではなく、第2郭との間の尾根を断面「L」字形にカットしたときの加工痕の可能性もある。

なお、表面観察によるかぎりでは主郭部外に遺構は見られず、また石垣も見当らない。

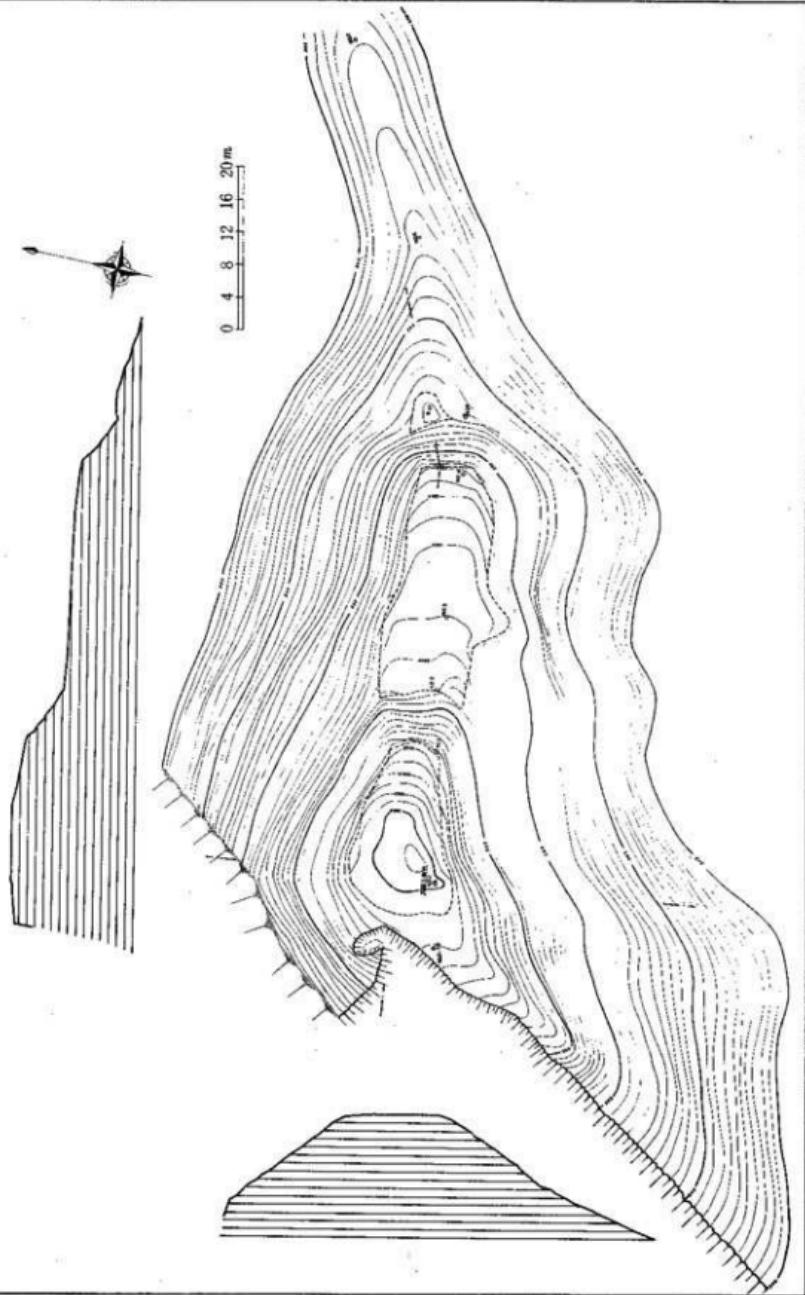
### (2) 周辺部（第3図参照）

主郭部の北側下方の二つの谷部分にそれぞれトレンチを設定し、北側を第1調査区、南側を第2調査区とした。

第3圖 球道城地形



第4図 球道城跡主郭部地形



## 第1調査区

崖面に沿って長さ22m、面積51m<sup>2</sup>のトレンチを設定した。層序は上から表土及び碎石に伴う客土（第1層）、黒色粘質土（第2層）、暗褐色粘質土（第3層）で、表土から地山までは、1.8mを測る。第2層は多量のクロボクを含んでおり、また、第2層・第3層とも北側に小礫を多く含んでいた。

## 第2調査区

この調査では2本のトレンチを設定した。

第1トレンチは谷底中央の傾斜の緩やかな位置に6m×3mのトレンチを設定した。層序は上から表土（第1層）、黒褐色粘質土（第2層）、褐色粘質土（第3層）であり、第1調査区と対応する。表土から地山までは2.3mを測る。なお、第3層中には多くの小礫を含んでいた。

第2トレンチは第1トレンチの北側に崖面に沿って4m×2mのトレンチを設定した。層序は第1トレンチと同様であった。小礫は殆ど含まなかった。

琢道城跡は、第1郭、第2郭とも尾根を約4mカットして段差をもたせるなど、しっかりととした郭を有しながら、縄張りは山頂周辺だけの小規模なものである。北側に伸びる尾根はすでに消滅しているため詳細は不明であるが、高見盆地に最も面した重要な位置でありながら1条の掘切りによって主郭部とを区画しているので、曲輪を設定せず、また、東側に伸びる尾根についても、第3郭より東側には掘切をはじめとした加工が全く見られないなど、縄張りとしては不十分なものと言わざるをえない。この点について三上鎮博氏は、築城は領地の経済力の増強に伴って次々に本丸から二の丸へと増築するもので一時に全てを完備したものではない<sup>(3)</sup>とし、琢道城は逐次整備していく段階を示すものであろう<sup>(4)</sup>とされている。

いずれにしても、琢道城は完備された山城ではなく、自然のもつ要害性に高く依存したものと考えられ、今回の調査はそれをあらためて再確認することになった。

## 註

- (1) 三上鎮博氏は本丸、二の丸とその下に空堀をもつだけとされている。  
「二つ山城跡・本城跡について」（「季刊文化財」第16号）昭和46年12月
- (2) 吉川正氏の踏査による。
- (3) 三上鎮博 「青杉城址について」（「郷土石見」第11号）1982年12月
- (4) 註1と同じ



## まとめ

琢道城に立つと、高見盆地の全城、出羽盆地の下流域が一望できるほか、羽須美村との交通の要衝を占め、また石見町方面から高見に通じる荷メ岬や、川本町方面から高見に通じる延岬を遠望することのできる絶好の位置を占めている。さらには、萩原城・黒岩城・宝大寺城・別当城・宇山城砦群など周辺に分布する中世山城も一望することができる。

ところで山城の築城過程は、頂部から削平を始め、まず土郭部分を整備し、城主の勢力の拡大や時間的経過と共に周辺の尾根上に曲輪群を配置し、その城郭規模を大きくするものである。しかし琢道城では、本丸、二の丸以外の削平は見られず、当然曲輪の配置されるべき本丸北の尾根には自ら手を加えられていない。このことはこの琢道城の城主の勢力がさほど大きくなく、また城の存続した期間もあまり長くはなかったことを示しているものと思われる。

琢道城については、文献資料もほとんど見られず、その歴史的経緯についても明らかではないが、地元では高橋氏の家臣椿氏の居城であり、新ヶ迫を隔てた丘陵上に所在した盛椿寺は、椿氏の菩提寺であったと伝えられ、また「石見誌」には琢道城について次のように書かれており、この伝承とはほぼ合致する。

琢道城 椿能登守政盛 明応年中政椿寺開基（本城常光家老椿雅楽助父力）晩年中野村ニ終ル。墓ハ同村子別所椿氏（家弓西ケ内）ノ家西ノ畠ニアリ。  
椿院殿前能州琢道刺繍大居士

「石見誌」については出典が明らかにされておらず事実関係の確認はできないが、現在椿姓の家は、瑞穂町高見地区、石見町中野地区に分布しており、他にはほとんど認められないことなどから、その信頼性はかなり高いものと考えることができよう。

これを肯定する立場から、以下琢道城築城前後の当地方の動きと琢道城築城の意義を考察することとする。

高橋氏が邑智郡に米住するのは、朝北朝期の正平5年(1350)邑智町青杉合戦に武家方として参加し、その功により正平6年羽須美村阿須那、口羽の地頭に補任されたことによる。その後高橋氏は宮方に転じ、正平16年(1361)二ツ山城主出羽氏を攻め、出羽氏は邑智町谷筋に退去した。高橋氏は二ツ山に隣接する本城に城を築き本拠を移している。その後元中元年(1392)朝北朝の統一に伴い、山羽氏は石見守護大内氏のとりなしにより旧領山羽上下郷700貫の内、250貫を回復し宇山に帰ってくるのである。出羽氏が回復したのは現在の上原、原村、上和田下和田の地域であり、宇山城を中心に毛城、赤城、白鹿城、信友城などの城砦を整え防禦に努めている。明応年間(1491～1504)の琢道城の築城は、こうした山羽氏に対する高橋氏の背後からの牽制の意味を持つと考えられるのである。と同時に川本町に本拠を置き石見町井原、瑞穂町布施、八色石、高見の一部を領有する小笠原氏を牽制する目的を持っていたことも考えられよう。

当時の高橋氏は強力な勢力を誇示していたのであるが、永正12年(1515)備後の三吉氏を攻め井津女城で高橋元光が討死したことによりさしもの高橋氏にも影がさし、その後の同族間の争いから天文5年(1525)頃には完全に滅亡するのである。琢道城城主椿氏が石見町中野に移住するのは、この前後と考えられるが、とすると、琢道城の存続期間は長くて約30年であり、前述したように城としての綱張りが完成されていないことも納得できるのである。



## 瑞穂町の城跡

現在瑞穂町内では第5図に示したとおり29ヶ所の城跡が知られており、その他にも城・砦跡と伝えられるものが数ヶ所分布しており、その数の多さに驚かされるのである。これは石見国全体を通していえることであるが、石見国ではその地勢上強力な勢力が育たず、中小の勢力が互いに小競合を繰り返していたことの表われであろう。

さて、町内の山城の中で最も規模の大きいものは二ツ山城跡である。二ツ山城は貞応2年（1222）出羽（富永）氏によって築かれたと伝えられる。これは、益田七尾城に継ぎ、石見国では2番目に古い城である。二ツ山城は、出羽氏が出雲頼原に移封される天正19年（1591）までの約370年の間出羽氏の居城であった。（出羽氏は一時期は君谷・宇山に居した。）本丸・西の丸などの曲輪群、空掘、堅掘などが良く残されており、また周辺には、副城・広石城・鳥打城などの砦群が配置されている。

宇山城砦群（毛城、赤城、白鹿城、信友城、樹光城、上俵城）は、出羽氏宇山時代の城砦である。

本城は、阿須那藤掛城に本拠を置く高橋氏が正平16年（1361）出羽合戦により出羽氏を君谷に追い落した後、出羽郷支配の拠点として築いたもので、文明年間（1470）頃には本拠を移しており、天文5年（1525）高橋氏滅亡までの居城である。高橋氏滅亡後毛利元就はこの城の破城を命じており、現在本丸付近は掘り切りにより完全に破壊されている。高橋氏関係の城としては、この他に出羽氏の動向を見張るために砦として築かれた野田城がある。また松尾城、小屋ヶ丸城・城平城などは高橋氏による久喜銀山の支配・防衛のための砦群である。

鞍懸城は、高橋氏による二ツ山城攻撃に協力して邑智備後介宗連の築いた向城と伝えらる。

布施城、錢宝城は、川本湯湯城に本拠を持った小笠原氏の支城である。小笠原氏は出羽氏の君谷退去に伴い高見まで勢力を伸ばしており、高橋氏と対抗していた。荻原城は小笠原氏の砦跡と考えられる。

桜尾（高）城は、那賀郡跡市音明城を本拠とする福屋氏の支城で、市木因幡入道兼宗の居城と伝えられ、後年毛利氏により落城する。本丸、二の丸などの曲輪群はよく整えられており、比較的規模の大きな山城であるが、空掘などはあまり整えられていない。福屋氏が益田氏から独立するのは天福元年（1232）であり、福屋氏の市木領有はこのときに始まる。したがって桜尾城の築城は1200年代の後半と考えることができる。福屋氏は上田所方面にも進出しており、小林城（小林氏）は福屋氏の属城と思われる。

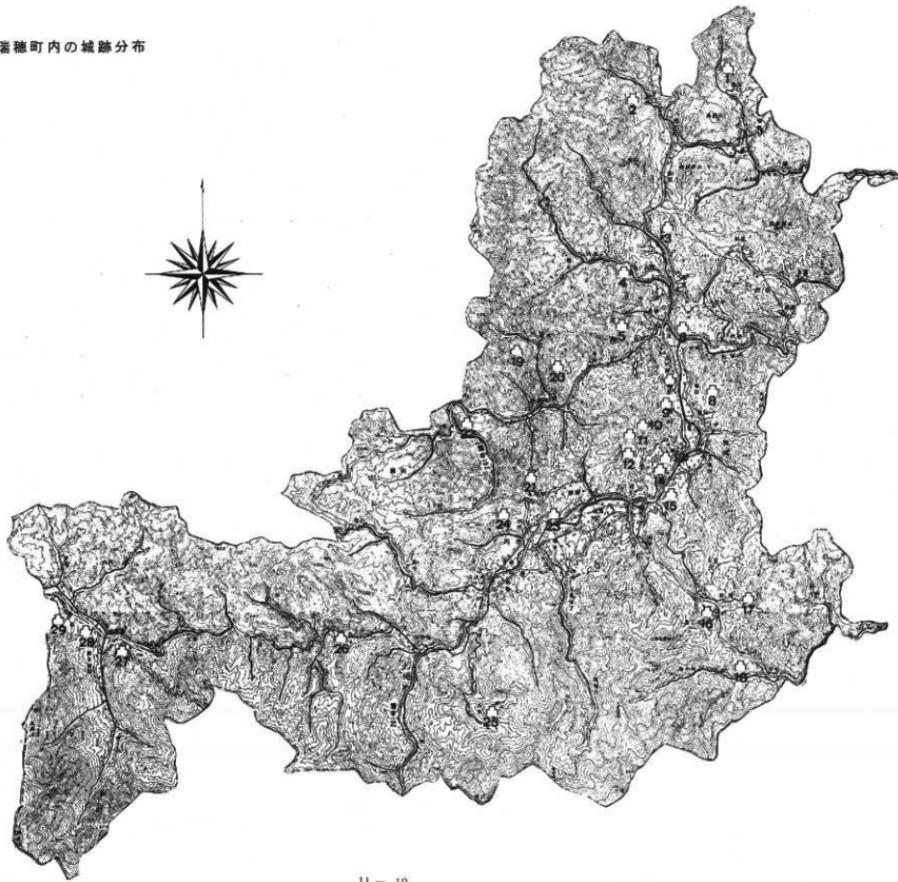
堀城は、堀小太郎重利の居城と伝えられる。堀氏は新庄吉川氏の家臣であり、雲月合戦により福屋氏の勢力の後退した興國3年（1324）以降の築城と考えられる。規模はさほど大きくなはないが、曲輪、空掘、堅掘などがよく整えられており、石積みの井戸も残っている。

このように各地に城を築き、互いに争っていた各氏は、毛利氏の台頭と共にその臣下となりあるいは滅亡してゆく。そして吉川広家の出雲移封に伴って当地の部将は山雲に移っており、これらの山城は廃城となるのである。

第1表 瑞穂町内の城跡一覧

| 番号 | 名 称      | 所 在 地    | 備 考             |
|----|----------|----------|-----------------|
| 1  | 布施城跡     | 大字布施     | 川本小笠原氏属城        |
| 2  | 錢宝城跡     | 大字八色石    | 小笠原氏砦跡          |
| 3  | 荻原城跡     | 大字高見荻原   | 小規模な砦跡          |
| 4  | 中善城跡     | 大字高見入野   | 小規模な砦跡          |
| 5  | 黒岩城跡     | 大字高見安田   | 新庄吉川氏属城         |
| 6  | 琢道城跡     | 大字       | 高橋氏の家臣樋氏居城      |
| 7  | 宝大寺城跡    | 大字原村矢広原  |                 |
| 8  | 別当城跡     | 大字和田下和田  | 毛利尼子の出羽合戦の舞台    |
| 9  | 土俵城跡     | 大字原村矢広原  | 出羽氏宇山時代の砦跡      |
| 10 | 白鹿城跡     | 大字上原宇山   | 山羽氏宇山時代の砦跡      |
| 11 | 赤城跡      | 大字上原宇山   | 出羽氏宇山時代の砦跡      |
| 12 | 毛城跡      | 大字上原宇山   | 出羽氏宇山時代の居城      |
| 13 | 信友城跡     | 大字原村上側   | 出羽氏宇山時代の砦跡      |
| 14 | 樹光城跡     | 大字原村出店口  | 出羽氏宇山時代の砦跡      |
| 15 | 野田城跡     | 大字和田上和田  | 高橋氏の砦跡          |
| 16 | 小屋ヶ丸城跡   | 大字岩屋岩屋   |                 |
| 17 | 城平城跡     | 大字岩屋岩屋   |                 |
| 18 | 松尾城跡     | 大字久喜百石   | 高橋氏の砦跡          |
| 19 | 鞍懸城跡     | 大字鰐淵馬の原  | 二ツ山城攻城の向城邑智備後之介 |
| 20 | 鳥打城跡     | 大字鰐淵馬の原  | 出羽氏の砦跡          |
| 21 | 二ツ山城跡    | 大字鰐淵鰐淵上  | 富永（出羽）氏居城       |
| 22 | 広石城跡     | 大字鰐淵鰐淵上谷 | 出羽氏砦跡           |
| 23 | 福（副）城跡   | 大字下田所田所下 | 出羽氏砦跡           |
| 24 | 本城跡      | 大字下田所田所上 | 高橋（本城）氏居城       |
| 25 | 大草城跡     | 大字上龟谷大草  | 小規模な砦跡          |
| 26 | 小林城跡     | 大字上田所小林  | 小規模な砦跡          |
| 27 | 小武家城跡    | 大字市木小武家城 |                 |
| 28 | 堀城跡      | 大字市木町    | 新庄吉川氏家臣堀氏居城     |
| 29 | 桜尾城（高城）跡 | 大字市木町    | 那賀郡 福屋氏属城       |

第5図 瑞穂町内の城跡分布





琢道城跡遠景（北から）



主郭部遠景（北から）



作業風景（第1調査区）



第1調査区

平成元年3月30日発行

琢道城跡発掘調査概報

編集 瑞穂町教育委員会

島根県邑智郡瑞穂町大字三日市32

印刷 柏村印刷株式会社

島根県浜田市柏生町3889